

7-9

クリニカルパスの有効活用

クリニカルパスの導入で職員の意識改革が出来た事

情報の一本化

意識改革

特別養護老人ホーム 青陽園

介護支援専門員 山崎 ともえ

東京都八王子市川口町1543番地

TEL：042-654-4025

E-mail：main@seiyoen.com

FAX：042-654-4086

URL：http://www.seiyoen.com

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

東京都で8番目、八王子市では初めに出来、80床からスタートし、現在は160床定員（ショートステイ20床含む）で、入所者は透析以外の利用者は隔てなく受け入れしている、今年40周年を迎えた特養ホームです。

〈取り組んだ課題〉

- ・ 情報を一本化し利用者を中心にしたサービスの提供
- ・ 他職種間のサービスの統一化
- ・ サービスの効率化

〈具体的な取り組み〉

- カードックスを活用し情報を一箇所にまとめた。
 - ・ 生活に必要な情報、緊急連絡先、ADL状況、医療情報、服薬内容、予測指示の情報
- 生活状況（食事・排泄・入浴、体位変換活動参加状況）の記録項目に沿った記録。
- 2週間毎にケアプラン評価、利用者状況の把握や分析、状態変化の予測、対応に繋がった。
- 1日を時間帯で3つに分けて記録し、受け持ち職員の責任の明確にした。
- フロア職員を小グループに分け、居室担当制を導入、責任を明確にする。
- シグナルを活用（重要事項、注意事項など）し観察の視点を絞りそれに沿った申し送り。
- 各専門職と協働でチェック、記録をした。
- ケアプランと共に栄養ケアマネジメント、機能訓練計画を入れ込み情報を共有化した。

〈活動の成果と評価〉

- 必要な情報をすぐに確認する事が出来る。
- 体調の変化なども水分や食事量との兼ね合いや排泄状況との関係性の予測にも繋がった。
- クリニカルパスの情報を活用して数日前の状況も含めて確認する事が出来る。
- 居室担当制の導入により、職員一人ひとりが利用者への責任意識が芽生え、仕事のやりがいに繋がりを、細かい所へも目を向け、状況の把握や変化に対応出来る様になった。
- ご家族との関係もスムーズになり、信頼関係も深まった。
- 各専門職との共通認識がしやすくなり、協力体制も取りやすくなった。
- クリニカルパスを活用し要点を絞っての申し送りにより時間が短縮できた。

〈今後の課題〉

- ベテラン、新人問わず、身体の状態変化に対して問題意識や対処方法を見いだせる様にしていく。
- さらなる有効な活用方法を見だし、クリニカルパスをステップアップしていく。

〈参考資料など〉